

矢野龍溪 （あやのりゅうけい） 小説家、評論家。嘉永二年十一月一日豊後國生れ、
 昭和六年六月十八日歿（八五〇—一九三二）。本名文雄。別號不語軒主人、
 天峯居士、浪地家養生、良計市隱、龍溪子、龍溪學人、龍溪居士、龍
 溪市隱等。明治六年慶應義塾卒。九年口郵使報知新聞副主筆、十一
 年大藏省出任之十四年政變之下野。翌年報知社社長、十七年外遊、一
 十二年宮内省御用掛、二十六年式部官、三十年清國駐在特命全權公使、
 大正十一年大阪毎日新聞社副社長。小栗又一著『龍溪矢野文雄君傳』
 （昭和五年四月一日小栗又一刊、春陽堂發賣）刊。

譯著書 『英米禮記』（本名、譯、明治十一年五月自版、丸屋善七（續）、

『人種新說發論』（同、明治十五年十一月二十一日畑野林之助出版）、

『（齊武）經國美談』（纂譯補述、佐藤藏太郎筆、初篇、明治十六年二月
各士自版、報知新聞社發兌。再刊、訂正『經國美談』四十年九月二十八日又盛

堂書店、改訂縮刷『（齊武）經國美談』大正四年四月二十一日永樂堂書

店）、『（齊武）選書讀法』（本名、明治十六年十一月十四日自版、報知社）、

『日本文體文字新論』（同、明治十九年二月自版、報知社）、『周遊

雜記・上』（同、明治十九年六月十一日版權免許、自版、報知社）、

『（嘉城通信）報知叢談志別士商人物語』（天峯居士名、譯、明治二十年五月上旬田

捨生編刊、大阪・巖々堂本店）、『國

民之友・第一集』（本名、合著、明

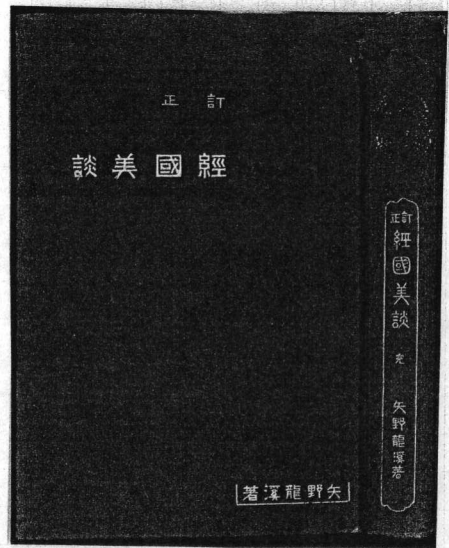
治二十年十一月上田捨生編刊、大阪

・國友館）、『（政治）社會大家演說集』（同、

合著、明治二十年十一月上田捨生編刊、大阪

・國友館）、『（政治）社會大家演說集』（同、

編刊、小林善右衛門、飯塚書店發兌）、『（西遊漫）想起



「註隨筆雜纂」(明治)二十四年十一月十七日久世久編刊、(長島書房)、
「註黑川道鏡編解」(近古史要)全二冊(本名、補修、明治)二十八年二月、
「註大日本圖書株式會社」、註「社會主義全集」(田川大吉郎編、明治)二
十六年九月、二十二年現代社)、註「世界に於ける日本之將來」(明治)二十八年
二月、二十五日近事畫報社)、註「浮城物語」(訂正新刊、明治)二十九年
一月十七日近事畫報社、五版、四十一年九月、二十日國崎屋書店)、註「閑
話集」(明治)二十九年十一月十一日獨步社)、註「出づるの話集」(大正四年五月十四日東亞
堂書房「縮刷名著叢書」)、註「龍溪閑話」(大正十二年十一月十日大
阪日日新聞社)、註「安田善次郎傳」(大正十四年七月、二十八日安田保
善社)等。